

所内研究報告 第42号
2012年3月

国立社会保障・人口問題研究所 2011～2013 年度人口問題プロジェクト研究

わが国の長寿化の要因と
社会・経済に与える影響に関する人口学的研究

— 第1報告 —

国立社会保障・人口問題研究所

まえがき

2010年国勢調査人口に基づく国立社会保障・人口問題研究所の新しい将来人口推計の結果が本年1月30日に公表された。それによれば、2010年に1億2805万7千であった日本の総人口は減少の一途をたどり、出生中位・死亡中位推計では50年後の2060年には8673万7千にまで減少する見通しである。一方、総人口に占める65歳以上人口の割合は、この間23.0%から39.9%へ上昇することが見込まれる。わが国はいよいよ本格的な人口減少時代に突入するとともに、歴史上どの国も経験したことのない超高齢化社会を迎えることになる。ここでとくに注目すべきことは高齢者の実数であり、同推計によれば、2010年から25年後の2035年にかけて、65歳以上の人は2948万4千人から3740万7千人へ、75歳以上の人は1419万4千人から2245万4千人へ、90歳以上の人は137万1千人から448万2千人へ100歳以上の人は4万4千人から33万8千人へ増加すると推計されている。すなわち高齢人口の中でさらに高齢化が起ることを意味している。

このような高齢人口の増加がわが国の社会・経済とりわけ社会保障制度に重大な影響を及ぼすことは明らかである。その状況を詳しく知り対策を立てるためには、日本人の「長寿化」すなわち寿命伸長のメカニズムや背景要因を明らかにする必要がある。そこで本研究所では2011～13年度の3年間にわたる人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」を実施することになった。出生力に関する研究が盛んにおこなわれているのとは対照的に、死亡や健康に関する人口学研究は日本では従来手薄であったが、2009年12月に「長寿革命：驚異の寿命伸長と日本社会の課題」と題する厚生政策セミナーを実施したことなどが契機となり、本研究所としても長寿化に関する人口学研究に総力で取り組むことになったものである。

本研究プロジェクトは主に、①日本版死亡データベース(Japanese Mortality Database: JMD)の構築、②死亡データベースを利用した人口学的方法論的分析、③長寿化に関する関連分野からの学際的アプローチによる実体分析の3つの柱からなる。プロジェクトメンバー(所内・所外委員)に加え、厚生労働省で統計や数理の実務に携わっている方々や民間企業のアクチュアリーなど専門家の方々にオブザーバーとして参加していただいていることも本プロジェクトの特色の一つである。これまで①②③の課題に対して並行して取り組んできたが、一定の研究成果が蓄積したので、今回「第1報告書」として刊行する次第である。さらなる研究成果については、第2年度末(2013年3月)に刊行を予定している「第2報告書」に譲りたい。

本報告書は3部構成になっており、第1部(総論)では研究の概要を述べ、第2部(各論)には研究班員の3つの個別論文を収録した。その中で、石井太は海外の先進的な死亡データベースを参照しHuman Mortality Database(HMD)で用いられている方法論を詳細にレビューした上で、JMDの構築に関して検討し、HMDと概ね同じ方法で日本全国の生命表が再現できることを確認した。またこの方法論の評価に基づいた改善法を提案し、新たな方法論を用いて全国版の生命表の作成を行った。鈴木隆雄は近年の日本人の死亡パターンの変化(生存数曲線の矩形化)を踏まえて、老化に関する長期縦断研究に基づく科学的データから、実際の日本の高齢者における健康水準の変動について論じた。また高橋重郷と別府志海は日本の人口高齢化に伴って生じる高齢者の医療需要について、厚生労働省の「患者調査」のデータから傷病別受療状況を把握し、

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計結果と組み合わせることにより、中長期的な医療需要の規模を推定した。第3部には、付属資料として、今年度作成した日本版死亡データベースの一部を掲載するとともに、死亡に関する人口学研究の日本語資料・文献リストを収録した。

本研究プロジェクト実施に当たっては本研究所内外の多くの方々のご協力を得た。とりわけ本プロジェクトの研究会において、進化生物学の視点から貴重な示唆をいただいた長谷川真理子教授、また有益なご教示をいただいた齋藤重正氏ならびに中込信之氏に厚く御礼申し上げる。

2012年3月

国立社会保障・人口問題研究所

「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」

プロジェクト

(所内委員)

佐藤龍三郎 (国際関係部長)

高橋重郷 (副所長)

白石紀子 (情報調査分析部第三室長)

別府志海 (同部主任研究官)

野口晴子 (社会保障基礎理論研究部第二室長)

泉田信行 (社会保障応用分析研究部第一室長)

石井 太 (人口動向研究部第三室長)

(所外委員)

河野稠果 (麗澤大学名誉教授)

鈴木隆雄 (国立長寿医療研究センター研究所所長)

堀内四郎 (ニューヨーク市立大学教授)

ジョン・ウィルモス (カリフォルニア大学バークレー校准教授)

目 次

第1部 研究の概要

- わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究
— 第1報告 — 3

第2部 個別論文

- 日本版死亡データベースの構築に関する研究(1) 石井 太·· 11
我が国の長寿化における高齢者の健康問題 鈴木 隆雄·· 31
人口高齢化と健康構造の変化 高橋 重郷・別府 志海·· 43

第3部 資料編

- 日本版死亡データベース(JMD)による生命表 1950年～2010年
..... 石井 太·· 63
死亡に関する人口学的研究文献リスト 白石 紀子·· 117